

富山県部会における「学生等に伝わるコンテンツ（案）」

～誇り・頼もしさ・楽しさが感じられる取組を～

●土木・建築系学生へのアプローチの強化

1. 実習プログラムの充実

1) 構内実習プログラムの充実

測量実習、左官作業、重機運転などにおいて、建設業協会等が資機材を提供し、社員や職人が生徒を直接指導する実習を行う

2) 現地実習プログラムの充実

実際の工事現場等をフィールドとして提供し、測量や丁張り等の作業を生徒に体験してもらう

3) 現場見学会の工夫

発注者だけでなく現場代理人等が説明することや、先輩(学校のOB)、若手および女性の技術者等が活躍する現場を見せるなどの工夫を凝らす
※文化祭等の父母・父兄が参加するイベントにも積極的に協力

2. 座学・講義等の充実

1) 行政による「地域のものがたり講座（仮称）」の開設

北陸地方整備局や自治体においては、「どう造るか」ではなく、「(北陸地方で)なぜ造るのか、なぜ必要なのか」といった「地域のものがたり」について、行政の立場から教育機関や生徒に情報提供する

※出前講座のみならず、年間のカリキュラムに組み込むことも検討

2) インターシップの充実

単なる作業補助やお客様で終わらないために、仕事のやりがいを感じられるプログラム・コミュニケーションについて検討し、実施する

3. 建設界における情報共有

行政・建設業協会等は、求人情報、入職状況、離職状況等の情報を教育機関に提供するなど、建設界全体の情報共有に努める

●上記以外の学生等へのアプローチの強化

4. 小中学生、普通校高向けのメニューを、官民共同で検討

5. 父母・父兄が参加する現場見学会の開催

※旅行会社等との連携や高名な学識経験者プロデュースのインフラツーリズムの開催など

『学生等に伝わるコンテンツ（案）』に関する意見・提案

【北陸地方整備局】

＜提案①＞土木・建築系学生へのアプローチ

大学、高専等の年間を通じたカリキュラムに、以下のような『連続講座』を設置し、教育機関、建設関係団体、行政機関が連携して、建設界の魅力を伝えてはどうか。

1. 地域の成り立ちを知る（地域ものがたり講座）

社会資本整備について、「どう造るか」ではなく、「（北陸地方で）なぜ造るのか、なぜ必要なのか」といった「地域ものがたり」を伝える

2. 社会資本整備の実際の現場について事前に学習（反転授業）

現在行われている地域の社会資本整備について事前学習する

3. 実際の現場を自分の目で見て確認する（現場見学会）

発注者だけでなく現場代理人等が説明することや、先輩（学校のOB）、若手および女性の技術者等が活躍する現場を見せるなどの工夫を凝らした現場見学会を実施

4. 実際に自分でやってみる（構内実習、現場実習など）

①構内実習プログラム：測量実習や左官作業などにおいて、建設業協会等が資機材を提供し、社員や職人が生徒を直接指導する実習を行う

②現地実習プログラム：実際の工事現場等をフィールドとして提供し、測量や丁張り等の作業を生徒に体験してもらう

5. 実際に働いている先輩に自分の意見をぶつける（OBとの意見交換会）

建設界の各業種がどのような役割を果たしているのか、実際に働いている先輩達がどのような「誇り・やりがい・楽しさ」を感じながら仕事をしているかなどを知るとともに、先輩達へ自分の意見をぶつけることができる意見交流の場を用意する

＜提案②＞土木・建築系学生以外へのアプローチ

1. 土木学生の子供を持つ両親へのアプローチ

⇒ 両親を対象にした現場見学、OB意見交換会の実施

2. 普通高校・中学・小学生へのアプローチ

⇒ 授業の中で地域の物語講座など、建設界の魅力を伝える授業や見学会の実施

3. 一般の方々へのアプローチ

⇒ インフラツーリズムなど

【富山県】

進路決定前の高校生、大学生等

① 女性視点による学生向けパンフレットの製作・配布

〔内容〕

- ・女性レポーターによる職場訪問、現場体験で発見した「土木のいいね！」
- ・「土木のいいね！」をテーマとした、女性レポーター同士による誌上座談会

「現場のカッコイイ姿」など

「とやま観光ナビ」など既存の人気 web を活用

② インフラ観光スポット情報の web 発信

〔内容〕

- ・観光資源となりうる施設についての a.紹介文、b.写真（キャプション）、c.位置図、d.アクセス方法、e.建設背景など
- ・インフラ施設に加え、グルメ、名勝等を加えたモデルコースの紹介

プロによる魅力的な写真

③ 土木事業や施設等を PR するお洒落なブログの作成・管理

〔内容〕

- ・女性視点の学生向けパンフレット製作の過程（上記①）
- ・インフラ観光スポット及び関連施設の取材情報（上記②）
- ・オシャレな街並み・建築物の紹介
- ・現場見学会（インフラツーリズム）の開催状況

【富山県立大学】

- ◆ これまでも、企業、官公庁、学会、大学が様々な観点から多くのイベントを開いているのに、魅力を感じてない現実を省みて、今までと同じことをしてもしようがない。
- ◆ 大学対抗土嚢積みコンテスト（以前、土木学会広島大会で実施したことあり）
- ◆ 水防訓練への学生の参加（もしくは学生だけの水防訓練）
- ◆ 学生による災害調査

【富山県立桜井高等学校土木科】

1. 生徒の興味関心を持たせる

(1) 現場見学会の実施

全学年実施する。学年によって見学内容を吟味する。1年生は興味関心を持たせることを中心に行う。2年生は土木工事の必要性や土木が社会に及ぼす影響を理解させる。3年生は土木工事の施工法、目的等具体的な内容の説明を受け、進路選択の参考となるようにする。

見学会ではできる限り本校OBの方に説明を受けるのが望ましい。

見学会では国土交通省や建設業協会、地元建設会社との連携により行う。

(2) 資格取得

資格取得により、興味関心を持たせ、知識の習得に力を入れる。また、進路選択に有利になることを理解させる。

資格一覧

- ・測量士補
- ・土木施工技術検定2級(学科)
- ・危険物取扱者
- ・小型車両運転講習(整地用3t未満)
- ・ビジネス文書実務検定
- ・計算技術検定(3級) など

2. 授業や実習、講演会の実施

(1) 実験・実習等の充実

測量実習：基本的な測量の他、工事測量を行い丁張り、勾配などのやり形の設置を行う。

施工実習：学校敷地内で見積から施工までを一貫して行う。

県の専門講師招聘事業を活用し、建設会社の方を講師で招いて各種工事の体験を行う。

(2) 講演会等の実施

本校土木科OB会と連携し、OBを講師に招いて講演会を年一回実施する。本校卒業生に仕事の体験談や土木の仕事の楽しさなどを語ってもらう。

(3) インターンシップの実施

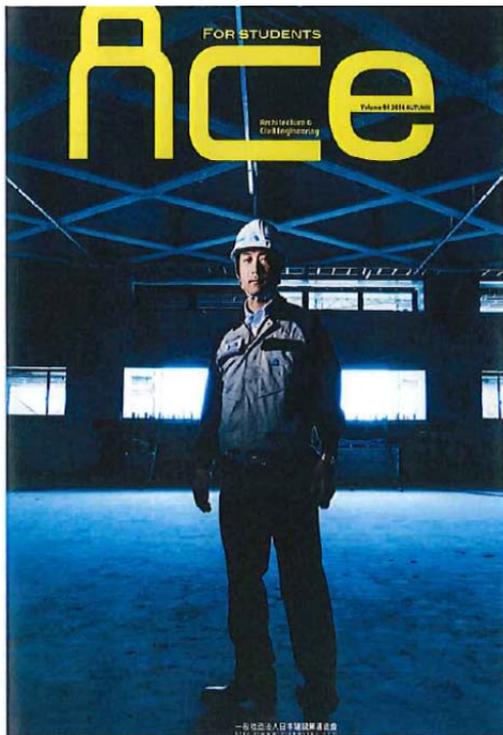
官公庁や測量会社へのインターンシップの実施。

【(一社) 日本建設連合会北陸支部】

・当支部の会員企業から長岡工業高等専門学校に非常勤講師を5名派遣し、担当科目である「建設マネジメント」についての講義を行っている。

・本部では、毎年、5月と11月に「FOR STUDENTS」というPR誌を発行し、全国の大学と高専の学生に配布しています。会員企業の若手技術者の現場での活躍状況や座談会等内容の掲載など、建設界における情報提供を行っています。

(長岡技術科学大学、新潟大学、富山県立大学、金沢大学、福井大学に配布)



Kenjitsu Komachi Roundtable discussion
"けんせつ小町。座談会"

仕事も家事も子育ても
ママはスーパーウーマン!



左品 悠さん(興付組) 藤川 真梨香さん(新田建設工業) 田中 真弓さん(豊島建設)

「働くママとして、仕事と育児の両立が、自分の理想の暮らしを実現するための鍵。『FOR STUDENTS』では、働くママのリアルな声や、現場での活躍状況などを取り上げ、ママたちの悩みに寄り添った記事をお届けしています。今回は、現場で活躍するママたちのリアルな声や、現場での活躍状況などを取り上げ、ママたちの悩みに寄り添った記事をお届けしています。」

仕事のやりがいを感じますか?

「現場で働くママは、仕事と育児の両立が、自分の理想の暮らしを実現するための鍵。『FOR STUDENTS』では、働くママのリアルな声や、現場での活躍状況などを取り上げ、ママたちの悩みに寄り添った記事をお届けしています。」

【(一社) 富山県測量設計業協会】

少なくとも学生は土木系の学部に在籍しているので、動機づけはされていると思われます。最近の採用活動の状況は、土木系の学生自体が激減しているのが現状です。担い手確保という観点では、一般の理工系学生や学生予備軍に対しての広報が必要と考えます。つまりメディアを利活用して広く一般社会に対しての広報そして土木に対しての動機づけの活動が必要と考えます。ここでいう所の学生予備軍とは中高生という事ですが、そのためには親への広報も必要です。

土木に対してイメージが悪い原因としては

- 昔から言われている3K（きつい・危険・汚い）
- 談合問題（これについてはメディアが悪い。贈収賄でも官製談合という言葉で談合問題としている。）
- イコール公共事業は「悪」というイメージ。そして事業費の削減
- （当然親は）将来に不安を抱く

その悪いイメージを払しょくするために

- メディアを味方にする
 - 災害時には早期復旧に向けた取り組みを報道（災害箇所の割り振りや測量作業や復旧工事など）
 - ○○の日などを設けミニギャラリーの開設
- 暮らしの安心安全を守る為の公共事業だという事の説明
 - 土木施設を一般向に事業説明と現地見学をセットでミニツアー（立山砂防や神通砂防など）
 - ターゲットを明確にし、求められる情報を伝える。
 - 工事看板などは何の為の工事（事業）なのかを分かり易く工夫する